

和気あいあい 越後田舎体験

よこのやま新聞



5月23日から27日にかけて、松之山が大勢の学生たちで賑わった。一つは越後田舎体験旅行だ。東京の武蔵野市立第二中学校の二年生が田植えや民泊などを体験することで自然や人の温かな交流を図るもの。

私の担当地区内では、おふくろ館で蕎麦打ち体験が行われた。私は蕎麦を實際に打って子供たち約50名に教える作業を黒倉集落のお母さん方と一緒にやった。

そば粉とふりのみで生地をこね、打ち、切ってそばにして自分たちで食べる。中々できない体験だ。最初はおっかなびつくりの子供たちだったが、次第に慣れ始めると真剣な目つきで取り組んでいたのが印象的だった。

賑わいの2つ目は新潟市内の調理師専門学校生の田植え体験。こちらは鬼口の滝沢農園で行われた。総勢120名の大所帯。10組程度の班に分け、それぞれが田植えする田に割り振られ



ブログもやってます「よこのやまぶるぐ」

た。私は班一つを受け持ち、田植えのやり方などを教えることになった。生徒たちは初めての田植え体験を楽しんでいた。

こういった田舎体験ツアーは松之山の認知度を高めるために重要な役割を果たしている。今後もっと規模を拡大するような取り組み方ができればよいように思う。顧客獲得に向けた営業活動はもちろんであるが、同時期に多くの体験客を収容できる施設をもっと確保しておく必要がある。例えば空き家に改修を加えることで民泊が可能になるような有効活用したりといった手法も十分考えられる。

佐渡ロングライドサポート



5月21日に行われた佐渡ロングライド。佐渡島周回210キロを自転車で1日で行くというイベントだ。今回は、懇意にしていたいているサイクルレーシング協会のお招きを頂き、修理と整備のサポートをするために参加することになった。今後松之山でサイクリングなどのイベントを行う際に、その運営方法やコース設定、佐渡市民の方々がどのようなサポート、関わり方をしているのかを勉強したい、という狙いもあった。参加者は約3500人。

宿泊施設もフェリーも満席状態。佐渡でイベントをするためには1日帰りでは不可能。宿泊は必須だし、フェリーでの往復費用を考えると参加者も参加費用以外にかかる経費は馬鹿にならない。それでも多くの参加者が来る秘密は・・・？それは綿密なサポート運営計画と、なによりも周辺住民の理解があつてこそだと確信できた1日であった。住民の皆さんが、地域が賑わうのをとても楽しみにしておられる、そんな印象を受けたイベントだった。